

# 心のフェンスを取っ払って

## 園田小学校

一 はじめに  
「5・6・せーの」  
中学校の運動場から、音楽に合わせて響いてくる揃った声。

（※体育科で行われているリズムジャンプの掛け声）

本校は市内で唯一、中学校とフェンスを隔て隣接している小学校である。だから運動場で行われている授業や行事は丸見えである。  
児童が、中学生のお兄ちゃんやお姉ちゃんの動きを立ち止まって見ていることもある。  
6年生にとって中学校への進学は心理的に壁がある。3学期ともなると新しい環境への期待と不安が入り交じり、落ち着かない時期となる。  
児童に進学への不安を聞くと次のような答えが返ってきた。

Wさん 勉強についていけないかな。  
Tさん ちよつとしたことで先生におこられるかも。  
Mさん 新しい友だちと仲良くできるかな。  
Mさん 部活の先輩との関係

不安は、中学校との間にある見えない違いからくるように思う。中一に向けて、心の不安を取り除いてやる連携とは・・・スムーズに中学へステップアップできるようにするには・・・

### 三 中学校への心のフェンスを取っ払う

これまでも実施されてきた小中連携事業の一つである中学校訪問。「勉強が難しそう」「部活での先輩との関係が心配」等、児童は漠然と大きな不安を抱いている。

#### （一）授業を実際に観る

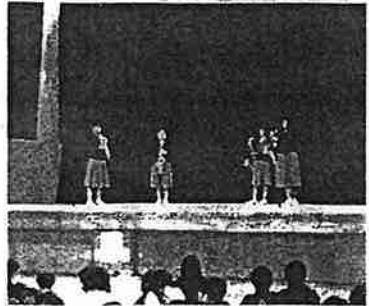
教科ごとに先生がかわり、それぞれの教科の面白さを専門的な知識をもって教えてくれる。参観した時も笑いが起こるなど心を和ませる話術で、知的好奇心をくすぐりながら授業は行われていた。

また、スクリーンを使った授業など、6年児童は興味津々で見入っていた。

#### （二）部活動の紹介

生徒の部活動紹介は、それぞれの部活動のユニフォームを着て、動きや演奏を披露したり、ユニフォームをまじえながら児童にわかりやすく説明したりと堂々としたものであった。

部活動は、学級や学年の枠を超えて同好の生徒が自主的・自発的に集い、個人や集団としての目的や目標を持って切磋琢磨し、人間関係の大切さや組織を機能させることの重要性を学ぶことができる教育活動である。



子どもたちのより良い成長に向けて、この立地だからこそできる、異校種間の見える化の取組を考えているところである。

### 二 リズムジャンプをきっかけに

中学校の体育科で実践されているリズムジャンプ。

テンポのよいビートのきいた曲を使って  
ライン（一本のゴム）を踏まないで  
様々なステップで  
「5・6・せーの」という掛け声で



本校6年担任の芝教諭と園田中の体育科佐川教諭は教育総合センターが実施している「体力向上研究部会」に所属し、リズムジャンプについて研究を深めている。

そこで、今年度1学期に本校6年の一クラスが、リズムジャンプに取り組んでいる中学校の体

先輩たちの真剣かつ楽しそうな表情に触れ、興味のある部活が見つかった児童もいた。

#### 児童の感想から

- 英語と数学が楽しそうだなと思った。ただ小学校よりも勉強が難しいからついていけないかなと思っ
- た。
- どのクラスもしっかりしていてかっこいいと思いました。
- 意外と笑いあり、まじめな時もあったてすごくびっくりしました。
- 練習しているところを見せてもらって、みんなすごい声をかけあって、チームワークがすごいんだなと思いました。
- ユニフォームなどの服も紹介してくださいだったのでとてもわかりやすかったです。
- 部活ではみんなが協力しているからこそできるんだなと思いました。
- 未経験でも大丈夫だと聞いて安心しました。

### 四 おわりに

6年の児童にとって、実際に中学校に行ってみたり、体験したりしたことは、大変有意義であった。授業や先生、先輩の顔が見え、中学入学への不安が軽減されたようである。楽しみの方が大きくなったようにも感じた。

今後も、児童・生徒が交流する授業などを仕掛け、お互いが前向きに声を掛け合い、安心できる小中6・3の連携にしていきたい。  
朝の登校時、正門前の横断歩道の信号が青になり、本校の児童がたくさん歩道を横切つて門に入ってくる場面で、中学生がその小学生を優しく見守り

育の授業に参加した。



小学生と中学生の異学年グループを複数作り、中学生が小学生に教える形で学習を進めた。児童は、はじめのうちは緊張した面持ちであったが、最後には中学生に聞くなど楽しみながら体育の学習に取り組むことができた。2学期には本校6年全員が同じように体育の学習を体験した。

#### 児童の感想から

- 中学生の方がいいねに手の動きとか、「一回みんなで見よう」とか「できなかつたことを「こうしたらいい！」とやさしく教えてくれたので自分もがんばろうと思えました。
- 中学生のあいさつや返事、ラジオ体操の時の声とか大きくなってはつきりした声ですごくいいなと思いました。
- 先生も最初見たときは、ちよつとこわそうだなと思つたけど、授業が始まるとすごく面白くてすごくいい人だなと思いました。また、いっしょにやりたいです。
- こんな中学生になりたいです。
- 何よりもすごく楽しかったです。

今後は、小学校においても下の学年の児童に広げていければと考えている。

ながら、全員が通り過ぎるまで待つていた。

その光景に心が温かくなった。  
今年度、リズムジャンプや中学校訪問で、運動場の間にあるフェンスから中学校に入った。今後先生も児童も生徒も、このフェンスの間を行き来し、それぞれ場の大切にしなげらも、子どもたち同士がつながる交流ができればと考えている。

昨年度からの感染症の影響で、交流が少なくなっているが、幼稚園とも交流をすすめ、園児の心のフェンスも取っ払えればと考えている。  
子どもたち同士のつながりを作ることで、不安からくる小1プロブレムや中1ギャップという言葉がなくなる園田中学校区になるように努めたい。

小学校と中学校の間には物理的に遮っているフェンスがあるが、夢や希望をもって進学できるように連携を今後も図っていききたい。  
子どもたちにとって次の学び舎は別世界ではない。



（校長 永所 孝章）